

校区の概要

位置

吉野川市鴨島町南西部に位置し、JR鴨島駅より1.5kmの場所にある。
東経134度22分、北緯34度04分、海拔15.4m

地形

四国山脈の端に位置する結晶片岩系、三波（さんば）川層の標高400mの樋山路・長戸を含む山地と、山麓の高原、独立行政法人国立病院機構とくしま医療センター西病院一帯の洪積層台地、さらに、人口も多く産業や交通も盛んな吉野川沖積平野の飯尾・敷地地区からなる。

歴史

山麓の台地には古墳時代に遺跡・遺物が多く見られ、飯尾地区は応神天皇のころ、呉服部（くれとりべ）が配置され、綾錦を生産されたと伝えられる。平安の初期、敷地地区に建立された河辺寺（こうべじ）は現在、礎石がそのまま残っている。四国霊場11番の札所、藤井寺の本尊薬師如来（重要文化財）をはじめ、付近の寺には貴重な文化財が多い。荘園時代には麻植の荘として、平康頼の所領となり、鎌倉時代以降、中世阿波の豪族として、後に足利幕府に重用された飯尾氏が居住し、文化的にも見るべきものが多く残っている。

教育面については、藩政末期（約200年前）鴨島町内においては、いち早く持福寺に私塾が設けられ、林居陵（文政～元治）が子弟の教育にあたった。（最盛期は元治元年の頃、男101人、女31人の塾生がいたと伝えられる。）

また、明治4年に郡内にて、山崎村の西郷学級と共に、飯尾村に、麻植郡東郷学校ができていたことから、学制発布以前、郡東部の教育中枢の地であったことがうかがえる。

現状

水田が広がり、静かなたたずまいを見せた農村地帯も、徳島市のベットタウンとして、1970年に県営集合団地・分譲の呉郷団地が建設されて以来、地域の開発は進んだ。校区内は一時急激な人口増加とともに活気にあふれ、ゆとりと絆の町づくりをめざしたふるさとづくりが、コミュニティセンターを中心に熱心に進められてきた。

地域住民の学校教育に対する関心も高く、協力的である。近くに少年の森、藤井寺、報恩寺、持福寺などがあり訪れる人も多い。